
～ 「Time is Money」 の徹底で、生産性は 300%向上する ～

コスト意識定着による

会社業績U字回復手法

講師：トータルマネジメントシステム研究所 代表 角川 真也（つのかわ まさや）

日本企業に共通する弱点とは？

コロナ禍により売上と利益の双方が激減し、経営危機に直面する企業が増加しています。この事態の打開策が見つからずお悩みの方も多いことでしょう。そんな皆様に私から一つ質問があります。日本企業と欧米企業の利益率には、なぜ大差（米国（22.6%）、欧州（15.0%）、日本（5.3%））が生じているのでしょうか？この問いかけには、御社の業績向上のヒントが隠されています。

コスト意識定着なくして会社は生き残れない

利益率に大差がある根本原因は、従業員の**コスト意識**の差です。欧米企業では個別業務毎に①投入経営資源（人（時間）・物・金・情報）②業務遂行で得られる利益の2つを管理しているので、従業員にコスト意識が自然に定着します。対して日本企業では前述の管理を行っているのは現場（直接業務）だけで、事務所（間接業務）は無管理状態のため、コスト意識が定着しません。その結果、利益率に大差が生じています。コスト意識徹底による全間接業務の黒字化（利益率向上）こそ、御社の業績向上および企業存続の決め手です。

コスト意識を定着させる方法

欧米企業と日本企業の利益率に大差が生じている原因は、**間接業務の生産性の差**にあります。その原因は間接員にコスト意識を定着させるシステム（**組織マネジメントシステム**）の有無によります。欧米企業では同システムは半世紀前から導入・運用されています。組織マネジメントシステムの入手方法は、①システムベンダーから購入 ②自社構築、の二者択一です。

システム自社構築のメリットとは？

既製品購入に比べ自社構築はノウハウ入手費用（セミナー受講料）と人件費のみで格安です。またシステム構築過程で、御社の将来を担う人材も育成できます。会社を人体に例えると、組織マネジメントシステムは**心臓**に相当します。会社規模にあったシステムを入手するには、カスタマイズ不要の自社構築がベストです。

組織マネジメント革命とその効果

既製品の組織マネジメントシステムは、個々の間接業務に費やすマンパワーの指標が「時間」です。これを「金額（人件費）」に置き換えることにより間接業務の個別採算管理が可能となり、これまでリンクが希薄だった**組織マネジメントと財務諸表が一体化**します。組織マネジメントシステムで顕在化したマネジメント不良は①業務量平準化（担当者間・月間・部署間）②業務のムダ取り③業務効率向上により解決します。その結果、業務生産性は大きく向上し、人件費を圧縮できます。**組織マネジメントで金を稼ぐ（経費削減）**という新しいステージ（組織マネジメント革命）へ進んだ御社は、競合他社に対し優位に立つことができます。

当セミナーで習得できるノウハウ

コスト意識の定着、間接業務の個別採算管理、業務量アンバランスの平準化、業務効率向上、リモートワーク環境下での部下の管理、会議の削減、プロジェクトの採算管理

ノウハウの実施に必要なもの

①社内ネットワーク（LAN） ②マンパワー ③従業員アンケートの実施

■ 受講対象者

経営者、経理・総務・管理部門の部課長
業務改革推進部署の部課長
自社の将来に危機感をお持ちの方（部署・職位不問）
組織マネジメントシステムの自社構築に挑戦したい方（部署・職位不問）

■ セミナー内容

1. これから我々を待ち受ける世界

- 1) もう『ビフォーコロナ』には戻れない
- 2) 『アフターコロナ』とはどんな時代なのか？
- 3) 新しい時代に生き残るために今すべきこと

2. 従業員へのコスト意識定着が会社業績向上のカギ

- 1) 世界から見た日本企業の利益率（OECD 諸国中最下位）
- 2) 欧米の企業と日本企業の利益率に「差」がある理由とは？
- 3) 日本企業が取りこぼしている『管理利益』

3. コスト意識定着による会社業績向上プロセス

- 1) 見える化 → 最小化（ムダ取り＋生産性向上） → 標準化
- 2) 数値データ（時間・金額）による実態の「見える化」
- 3) 3つの業務量平準化（担当者間・月間・部署間）
- 4) 管理利益創出事例紹介（10名の部署で年間2,500万円!!）
- 5) 業務量の平準化を可能にするシステムとは？
- 6) 「ムダ」を取りたければ「ムダ」を探すな!!

4. コスト意識の定着方法とその効果

- 1) 「時間」から「金額」へ
 - ①金額換算方法およびその効果
- 2) 経費削減事例紹介
 - ①会議の削減
 - ②プロジェクトの採算管理
- 3) 組織マネジメント改善事例紹介
 - ①管理職の職務の明確化・シンプル化
 - ②リモートワーク環境下における部下管理方法
- 3) コスト意識徹底による人財育成方法
 - ①「Time is Money」意識の即時徹底方法
 - ②従業員ひとり一人の「考え」「行動」「習慣」が変わる
 - ③投資と回収（費用対効果）による経営感覚の醸成

【講師略歴】 中堅部材メーカーにおいて社内コンサルとして間接業務の「見える化」「最小化（ムダ取り＋効率化）」「標準化」手法を全社展開、生産性を300%向上させ会社倒産の危機を救う。独立後は『組織マネジメントシステム（ERP）』自社構築による間接業務の生産性向上手法普及に専従。数値データ（時間・金額）を駆使した科学的マネジメント手法による組織パフォーマンス向上を得意とする（「TMS研」でHP検索可）。セミナー開催実績：79回/10年、受講者累計：803名、受講者評価：平均77.8点、著書『R&D部門の働き方改革とその進め方』（技術情報協会刊・共著）

■ 開催日時 御社のご希望の日時（4時間）

■ 聴講方法 WEBセミナー（zoom使用）

■ 受講料 59,800円/人（消費税・教材の送料含む）

■ 主催 トータルマネジメントシステム研究所（「TMS研」でHPを検索できます）